

第10回情報交換会 アンケート記述

1 本日の発表について

(高校)

- ・卒業生の視点で高校時代の課題研究への指導についてポイントを聞くことができたのはよかったです。
- ・ご自身の経験や考えを時系列でまとめてお話いただき、とてもわかりやすく参考になる内容でした。特に「サイエンスを楽しもう」というメッセージが心に響き、その方向で自校でもがんばろうと元気づけられました。
- ・他校の現状を知ることができ大変参考になった。樋口先生の話はよい刺激になった。
- ・サイエンスフェアのスタンプラリーが始まった経緯などしれて面白かったです。SSH は年数が進むごとに、その目的などはどんどん変化していると思いますが、SSH が培った力を生かした職業に就く人材が増えていっているのを時間しました。
- ・樋口先生の研究内容や「科学を楽しむ」という信念、参考になった。「楽しむ」という内的動機付けをいかに生徒の中に育てていくか、それには教師が研究を楽しみながら探究的活動の充実させなければならない。指導の中で、生徒の探究活動（課題研究）の着地点を、常に見通しを立て行く必要とその困難さを改めて認識するとともに、その達成のために教員の素養を鍛える必要を痛感した。
- ・樋口 さんの講演会が、たいへん良かったです。“科学 を楽しめ”が出来ていないなど、感じさせられました
- ・講演会では、探究活動の指導において、楽しむことの大切さを思い出させていただきました。各校の発表においてはそれぞれの取り組みについて生の声が聴けるというのは良かったです。最後の質疑応答で活発に意見が交換されれば良かったのですが、自分も経験が浅く、具体的な意見を思いつきませんでした。
- ・現場の意見を反映していて良かったです。奮闘している様子がよくわかりました。

(企業)

- ・SSH一期生の樋口さんが高校卒業後、今日の研究者になるまでに辿った経験は、実際に経験したものには分からない、非常に説得力のある内容だった。
- ・今は中・高校の教師を通して、課題指導を模索されているが、ご自身の経験を活かしておられるのが頼もしく感じた。
- ・特に、「科学が好き」になることを指導されているのは、何事にも通じ、企業でも必要なことなので、後輩によく指導していただきたい。
- ・全く知見の無い分野の内容であったが、興味を持って楽しむことができた。優れたプレゼン・高校の課題研究についての問いかけも、伝えたいことがよくわかった・重要な投げかけであったので、参加者間で意見交換すべきだったと考える各校からの報告・興味ある報告が多かった・形に流れず、本音の報告が多いように感じた・問題意識を共有されていたと思うが、共通のテーマの一定の様式での報告と個別に発表したいことの報告を組み合わせることも、意見交換の一層の活発化の手法として検討されてはいいかがか

(行政)

- ・樋口先生の発表が素晴らしいと思いました。また、どのような実践をされているのか、授業見学をしたいと思います。

2 本日の企画全体に関して

(高校)

- ・以前のようにSSH校以外の多くの学校が、参加をしてもらえるようにしていく必要があると思います。
- ・講演、情報交換ともとても参考になりました。企業の方の参加があり、少し視点を変えたところからのコメントがあるのも良いと思いました。
- ・以前は分科会形式であったが、今回は全体会のみであったので発言の機会がなかった。事前にアンケートを取って集約してそれをもとに答える形で全体会を進めるなど、少し工夫をしていただければより意義深いものになったと思われる。
- ・各SSH校の取り組みに関しては、知ることができてとても有意義な時間になりました。ただ、可能であれば分科会を作って話し合うような情報交換会も実施していただきたいと思います。
- ・SSH指定校が増え、他校の取り組みを伺うことができたのは参考になった。そのなかで、指導助言で蛭名先生のおっしゃっていた通り、県教委のほうで、その取り組みの共通性や特色を全体を俯瞰してまとめていただけると、今後の計画にも役に立つと感じた。

- ・他校の取組を知る機会は、とても貴重です。SSH 校以外の参加がもう少し多ければ、良かった と思いました。
- ・複数学年で構成されたチームでの課題研究の可能性など、面白い視点を得ることができました。
- ・各校の取組発表の後の質疑応答が良かった。各校で、ばらばらの報告書式だった。悪くはないが、年末の全国の情報交換会のように書式を統一しても良いと思った。

(企業)

- ・研究課題の経験者の、高校卒業後の経験をありのままに伝えていただけたのは大変貴重。
- ・同じ研究課題に係っている現場の先生方の悩みを、皆で共有できるのは非常に良いことと思う。企業でもプロジェクトで壁に突き当たった時、悩みを共有することで道が開けることが多い。
- ・初めて参加しましたが、有用な会でした。ただ、座席は教室型でなく、コ型かロ型にして顔が見えるようにした方が、意見交換には良いと感じました。2 列くらいでできるのでは・・・。

(行政)

- ・非 SSH 校の参加がどれくらいあったのかが重要です。

3 高校における人材育成に関して、このようなサポートがあればよい・このようなサポートならできる、ということがある

(高校)

- ・これから入ってくる「総合的な探究の時間」へ向けて、県下の多くの学校が取り組みに向けての工夫、課題研究の深める工夫について情報交換しあう。
- ・各校の連携を深め、地区ごとの合同発表会を企画するなどをお願いしたい。
- ・どのようにして人材育成を行っているのか、その具体的な手順などを兵庫県下の高校で共有して、活用できるようになれば良いなと思いました。各学校で特色があり、同じように実施するのは困難だとは思いますが、兵庫県はこういった手法で人材育成を行っていますという柱があれば、9 校の SSH 校はその枝葉としていろいろな花を咲かせられると思います。神戸大学との Root プログラムなどとも連携した、人材育成ができればと思います。
- ・本校では、課題研究アドバイザーや特別非常勤講師の先生方に大変お世話になっている。それは教師では気付かない専門性や、社会経験もとの生徒への関りの点である。他校も同様にそのような人材を活用された例が多々見られた。このような人材バンクを県全体で共有できれば、ありがたいと思う。
- ・地域の近隣企業が持つ分析機器などの情報。例えば土壌分析をしたければ〇〇社にこんな分析機がある。など、「〇〇のテーマについて機器△△が□□社にある」という情報
- ・昨日の懇親会で神戸高校の長坂賢司先生とお話していたのですが、各校の理科教員のネットワークを利用して、物理、化学、生物、地学、数学の教員で何か出来るような気がしました。11 校の SSH です、かなりの理数教員数になるように思います。

(企業)

- ・現在はSSHというある特別な環境で特別に選抜された生徒が活動し、それを担当の先生が手厚く指導する体制を取っており、時には外部の人材がサポートしているが、これを普通科の生徒にも広げていく過程では、明らかに人材の不足が挙げられる。シニア世代の知見を活用する仕組みを、国や県ももっと力を入れ、財政的にも支援していく必要を感じる。
- ・生徒のグループ内での意見交換が鍵。相手の主張を理解し、自分が何を考えているかを理解し、自分の意見をGrのメンバーにわかってもらおうと努力する、そのような能力を育てていくことが最も重要と考えています。Grの討議を聞きながら内容ではなく、進め方に時々口を出す、というようなサポートは出来るかもしれませんね。

(行政)

- ・人材バンク、研究課題バンク、科学技術リソースの共有を早期に実現することが一番であると思います。

4 兵庫「咲いテク」事業全般について

(高校)

- ・2年くらいかけて、地理情報システム(GIS)を使った高校生探究の事例集みたいなのがあればよいなと思っています。
- ・重点枠が再指定されて、一層SSH校同士のつながりが広がっていきそうですが、欲を言えばSGH校やWWL校との合同情報交換会などを実施していただけると、他県にない取り組みになるのではないかなと思います。いろいろとお忙しい部分もあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

- ・SSH校が繋がりをもって取り組むことができるのは、大変貴重であると考えている。このような事業に感謝するとともに、今後ともよろしくお願いします。
- ・SSH校などの情報共有と県下の学校への情報発信として、欠かせないものだと思います。
- ・”昨日の咲いテク委員会は日曜に開催する趣旨は何か理由がありますか？平日に出来ない理由があるのでしょうか？サイエンスフェアの場所確保について、各校の参加人数制限をかけると少しは落ち着くのではとおもいます。教員側の思いは連れて行った見せてあげたいとおもいますが、残念ですが生徒全員が見たいと思っているのではないと思います。正直な所、ゲームしている生徒は一定数います。会場のキャパが限られているので、一校あたりの参加人数制限をかけるのも一つの手だと思います。

(企業)

- ・この事業が指導者のための情報交換会というのは十分承知しているが、時には現役の生徒も交えた、意見交換の場があっても良いのではないか。(すでに有るのかもしれないが)
- ・当事者(現役の生徒)の気持ちを理解することで、指導方針にも少し影響が出てくる気もする。
- ・あるいは今回の樋口先生の講演内容を各校でDVD鑑賞して、生徒と先生方が意見交換する機会があっても良いように思う。
- ・事業の目的は「生徒の研究課題」の充実を図ることであれば、“主体”の生徒の反応も見ておく必要がある。
- ・事業の目的に統一感が欲しい、という意見もありましたが、各校の自主的な運営を基本にして、ばらばらでもあまり気にしない、ということなのは。
- ・研究の成果が気になるでしょうが、それは本来の目的にすべきではないと考えます。まずは「自分の考えを、人にわかるように平易な言葉で伝える」能力の涵養を第一目的とすべきです。成果は時間をかけ、先生の支援を強化すれば出ると思います。

(行政)

- ・吉田所長は、大変有益なアイデアをお持ちなので、運営に反映させていって欲しいです(高校教育課がすることかもしれませんが)。研究課題バンクや人材バンクの構築などで、シスメックスのノウハウを活用することは有りだと思います。実際、SSHに関わる忙しい先生方が、研究課題バンクや人材バンクを構築していくことは困難であるし、このままではなかなか進まないのではないのでしょうか。